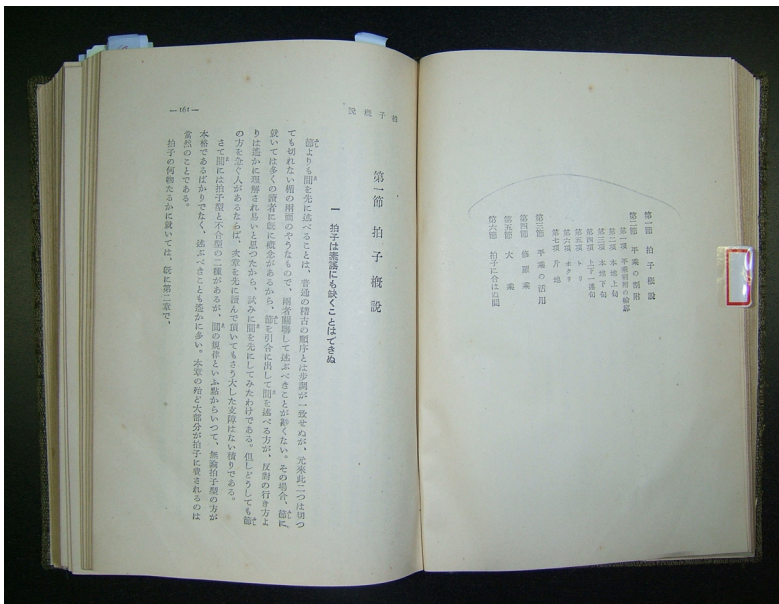
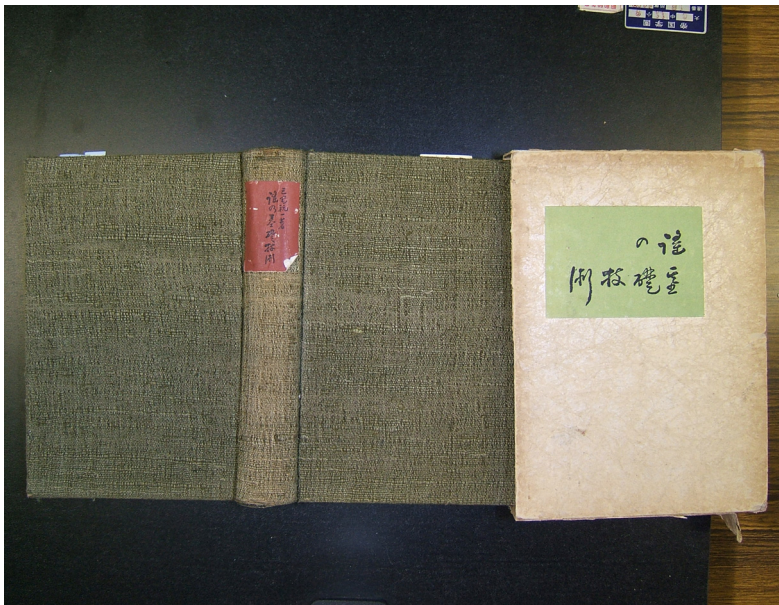


三宅粂一 『謡の基礎技術』

謡の音楽組織を総合的に理論づける書。「小段」という言葉や概念がはじめて提示されたのが本書であることを忘れてはなるまい。拍子に関しては全体の三分の一強（二三三頁）を費やす。割付けについては基本的に山崎楽堂の示す範囲を超えないが、拍子の「活用」面に焦点をあてたことに本書の特徴がある。ツツケ謡や三地謡はもちろんのこと、「乗りを付ける、消す」等、「乗り」に焦点をあて、活用表現を詳細に記述、場合によっては、図示する。技法に対して美学的に解釈を行っている点も画期的である。



標題 内題：—

標題紙：謡の基礎技術

奥附：—

その他：謡の基礎技術（巻末・背・函題

簽

著者 奥附：三宅粂一

その他の場所：三宅粂一（標題紙・背）

出版 版次：再版

出版地：東京

出版社：東文書院

出版年：昭和14（1939）

その他の場所：序 昭和14（1939）

形態 冊数：一冊十函 頁数：六〇八頁

寸法：19×14（cm）

状態 写本版本の別：版本 現物複写の別：現物

備考 山崎楽堂序。初版は昭和一四（一九三九）

年。